古江台中学校ブロック（ 古江台中学校　古江台小学校　津雲台小学校　古江台幼稚園　はぎのきこども園 ）

幼保小中連携通信　*JOINT*　NO．４０

２０１９．３．１２

古中ブロック公開授業・冬季合同研修会

１月１５日（火）今年度は公開授業の後、冬季合同研修会を開催しました。

公開授業　古江台中学校　１年１組　道徳「思いやり」　授業者　田ノ上 裕太 先生

「泣いた赤鬼」を題材に、日々の自分を振り返り、周りの人とどのように接するべきか、『思いやりとは何か』を考えさせる。

古江台中学校　１年２組　道徳「方言と共通語」 授業者　今宿 由紀子 先生

地域ごとに長い時間をかけなじんできた方言。その魅力を通じ郷土の良さ、さらには他者理解へつなげる。

古江台中学校１年３組　道徳「感謝の心」

授業者　久保 達也 先生

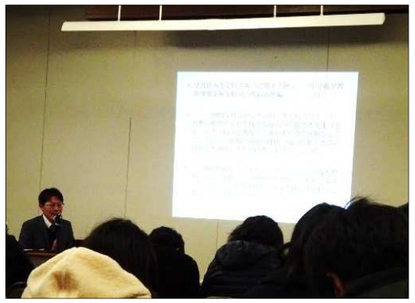
より良い人間関係のため、感謝の念が大切と感じ、ふだん意識していないところでまわりの人に支えられていることを気づかせる。

講 演 会　「道徳における授業づくりや評価について」

講師　大阪教育大学　小林 将太　准教授

道徳科が「特別の教科」となるまでの経緯を、これまでの中教審答申や学習指導要領の改訂を紹介しながら説明していただき、多様な価値観に誠実に向き合う姿勢を養う「考える道徳」「議論する道徳」へ転換が図られたことを教えていただいきました。

さらに、評価の基本的な考え方について、いくつもの例を挙げ教えていただきました。



「特別な教科 道徳」の指導方法・評価等について

（報告）（2016）　より

【評価の基本的な考え方】

・数値による評価ではなく、記述式

・個々の内容項目ごとではなく、大くくりなまとまりを踏まえた評価

・他の児童生徒との比較による評価ではなく、いかに成長したかを積極的に受け止め、励ます個人内評価

・より多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視

古中ブロック公開授業

１月２５日（金）５限目

津雲台小学校　６年１組 国語「生き物はつながりの中に」 授業者　寺本 清美 先生

講師　大阪教育大学　　住田　勝　教授

授業では、「生き物はつながりの中に」の筆者である中村桂子さんの主張を、本文中の根拠部分を明らかにしながら考えることで読み取る学習が行われました。

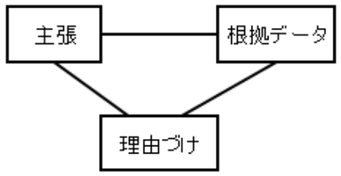
まず、他とは何か？ということについて、根拠を示して書く活動が行われました。考える時間を多くとって「段落に～の表現があります。だから～ 。」といった根拠を含めた考えの書き方の例が示されたワークシートに児童が書く様子を、ていねいに机間巡視されていました。

その後、中村桂子さんが本教材を通じて読者に伝えたいメッセージについて、グループで話し合う活動へと続きました。友達の考えを聞いて『なるほど』と思ったことや感想、意見を出し合っていました。

講師の講話では、「生き物は円柱形」という題材を用いて、根拠を示した文章の構成についてのお話がありました。

根拠を示した文章では、読む人が『なるほど、確かに』と思えるように呼び掛けてみたり、反論をあらかじめ予想して書かれていることや、論理的な主張には、客観的なデータと、そのデータと主張を結びつける理由づけが必要であり、この論理を三角ロジックと言われていることを教えていただいきました 。

三角ロジック



根拠データ：客観的に見て、共有できるもの

また、論説文を読むにあたって大切なことは、筆者の主張は必ず本文中から見つけ出すことであり、根拠とは何かを考えるとき、自分の意見と筆者が考える根拠は違うことを明確にして、読み手の勝手な推測等で読み取ることは避けなければならないといったことを学ぶことができました。

そして、説明文の第一段落には、・読者を引き込むための導入（引き込みがうまくなければ面白いと感じない　・説明ガイドや内容の方向を示す　といった２つの入り方があることや、同じリズムで連続して説明することで、異なるものの違いを鮮明にする。そのような文を読むときには、リズムが変われば「なぜ？」と思うことが必要であること、説明文（作文）を書くとき、書きたい内容をどの順番で書くのかを十分に悩ませ、自己決定させることが必要といったことも教えていただきました。